

上越市における体育科教育の取組について

1 はじめに

生涯体育につなげる観点からも、体力の向上や心身の健康の保持増進には、児童が自ら進んで運動に親しもうとする資質や態度が不可欠である。児童に望ましい力を身に付させるために体育授業の果たす役割は大きく、体育授業の一層の充実が必要である。そのためには、新学習指導要領が導入された今、指導内容・方法について真摯に検討を重ね、指導力の向上を図らなければならない。

上越市では、授業力・指導力の向上を目指し、上越市学校教育研究会保健体育部会において、授業研究を研修の柱に据え、研鑽を積んでいる。

2 今年度の実践

保健体育部会では、研究主題を「主体的に考え、運動に進んで取り組む児童の育成」と設定し、研修を継続している。

今年度も、この主題のもと公開授業を行い、その後の協議会では、上越教育大学の准教授から学習指導要領の留意点について指導をいただいた。

なお、この保健体育部会は、小学校教員だけでなく、中学校の保健体育科担当教員も参加し、小・中学校の連携を図ることも目的の一つとして行われている。



<今年度公開授業>

○単元名 器械運動「マット運動遊び」 第2学年

○研究主題とのかかわり

今回の公開授業では、本研究主題を受け、目指す児童像を「運動の楽しさを味わい、進んで活動することができる子」とし、以下の手立てを設定した。

- ① 児童一人一人が運動の楽しさを味わい、「動き」や「技術」の向上に結び付く単元計画・学習過程を工夫する。
- ② 児童が興味・関心をもつような場、やっているうちに多様な動きが身に付く場を工夫する。
- ③ 他の児童とのかかわりが増えるような授業を構築する。

○実践内容

今できる力で転がったり跳んだりして楽しんだり、自分の力に合った新しい動きに挑戦し、できるようになることを楽しんだりすることを重点に置いて単元を構成した。その中で、実際の活動場面においては、子どもたちのいろいろな動きを引き出せるように、学習進行に合った場の設定を行った。

授業では、子どもたちが自分で考えた技をお互いに見せ合うことで、さらに運動意欲が引き出され、進んで新しい動きに挑戦しようとする姿が見られた。

<今年度研修会>

上越教育大学の周東先生を講師にお迎えし、新学習指導要領の完全実施における留意点について、ご指導をいただいた。講話の中では、普段の体育授業において取り組むべきこととお話いただき、参会者の感想からも、今後の体育科授業の指針になったという言葉が多かった。



3 終わりに

生涯に渡って運動に親しむ資質を育てるのが学校体育の重要課題である。その意味で体育授業をどのように組み立て授業改善を図るかが問われている。上越市では毎年の研修の機会を大切して、教師の指導力向上へとつなげられるように取り組んでいる。また、小中の連携を深め、発達段階に応じた指導を充実させるとともに、小中間の格差をなくして次のステージにつなげていくように努めている。